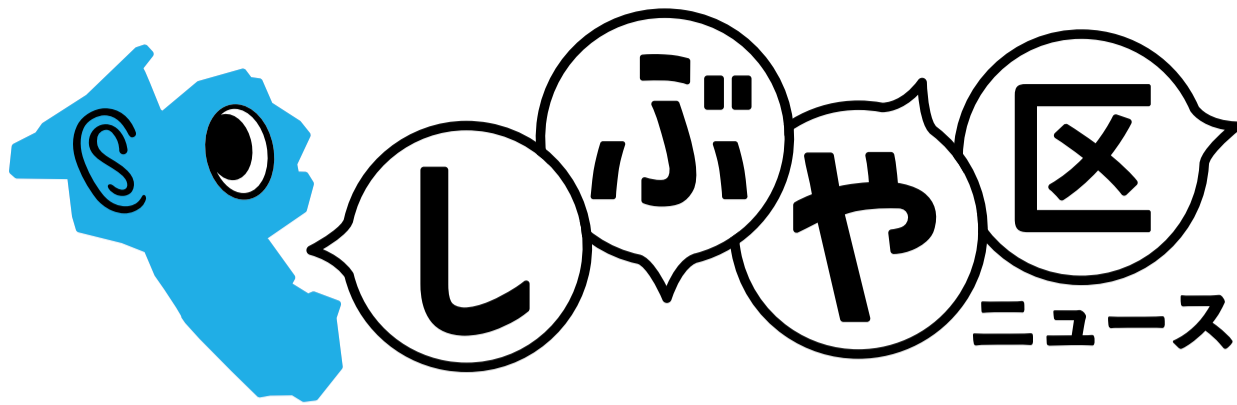


手話は聴覚障がい者の意思疎通を支える“言語”。

令和4年 (2022年) 12月1日 No. 1507



発行 | 渋谷区
編集 | 広報コミュニケーション課
所在地 | 〒150-8010 宇田川町1-1
電話 | 03-3463-1211 (代表)

区SNS



City News SHIBUYA

English-language newsletter



Catalog Pocket

This paper is available to read and listen to in 10 languages.



(左から) 越川重夫さん、山田照子さん
※越川さんは「親しみを込めたあいさつ」、
山田さんは「あいさつ」という手話をしています。

※インタビュー時は、マスクを着用、換気、身体的距離の確保を徹底し、感染対策を行いました。撮影時のみ、マスクを外して撮影しました。掲載情報は新型コロナウイルス感染症の影響により、変更となる場合があります。

誰もが手話を使えるような社会へ。

4 | 新型コロナワクチンに
6 | 関するお知らせ ほか

7 | 12月4～10日は「人権週間」です
9 | ほか

10 | 国民健康保険制度について
11 | ほか

ちがいを ちからに 変える街。渋谷区

渋谷区は令和4年10月1日に区制施行90周年を迎えました。



手話でのコミュニケーションを、もっと広げたい。

渋谷のラジオで
出張インタビュー

渋谷区聴覚障害者協会の越川重夫さんと渋谷手話の会の山田照子さんに、聴覚に障がいがある人たちとコミュニケーションを取る上で大切なことを伺いました。



渋谷区聴覚障害者協会 会長
こしかわ しげお
越川重夫さん

「ありがとう」「こんにちは」など簡単な手話を使える人が増えたらうれしいです。



渋谷手話の会 会長
やまだてるこ
山田照子さん

継続は力なり。手話を覚えるのは大変ですが、続けてよかったと思います。

聴覚障がい者の社会生活を支える手話通訳者

自己紹介と、これまでのご経歴を教えてください。

越川：渋谷区聴覚障害者協会の会長を務めています。新潟県津川町で生まれ育ちました。生まれつき耳が聞こえず、私と同じく聴覚障がい者である兄の手話を見て、幼少期から自然と手話を覚えました。ろう学校の小学部から高等部まで寄宿舎で生活し、卒業後に仕事のために上京しました。鉄工業、印刷業、銀行などの仕事を経て、今は清掃関係の仕事に就いています。

山田：渋谷手話の会の会長を務めています。生まれも育ちも渋谷です。就職してから冬によくスキーに行っていたのですが、あるスキーツアーで聴覚障がい者の人たちと知り合ったんです。彼らが手話を使って会話しているのを見たのが、手話との出会いでした。その時、彼らから名前やあいさつなどの簡単な手話を教わったことを今でも鮮明に覚えています。こうして手話に興味を持ち、東京都で手話講習会を開催していることを知り、申し込んで参加しました。現在まで約50年、手話の勉強を続けています。

渋谷区聴覚障害者協会(以下、ろう協)とは、どのような団体なのでしょう。

越川：聴覚障がい者の社会生活向上を目的として昭和54年8月に設立され、今年で44年目になります。私は平成元年から会長を務めています。ろう協では福祉講座や文化講座を開催しているほか、旅行やハイキングなどを企画しています。また、毎年3月3日に開催される「耳の日」のイベントや、渋谷区障害者団体連合会の運動会・作品展にも積極的に参加しています。

手話通訳者の養成にも携わっているそうですね。

越川：はい。手話通訳者のおかげで、聴覚障がい者はさまざまな場所に出掛けたり、大事な手続きをしたりすることができます。手話通訳者を増やすために、渋谷区では手話講習会を平成3年から開催しています。手話通訳者の派遣制度は、平成9年からスタートしました。おかげさまで、必要な場面に応じて、手話通訳をお願いできるようになりました。

渋谷手話の会の活動について教えてください。

山田：主に手話の学習指導や、聴覚障がい者に対する支援をしています。大向、恵比寿、幡ヶ谷の3か所で、手話の勉強会を開催しています。そのほか、年に2〜3回、聴覚障がい者に手話で話していただく勉強する講演会があります。ろう協と合同で、納涼会やクリスマス会、忘年会なども実施しています。

手話を知らなくても、身ぶりや表情で伝えてほしい

手話通訳者がいない時、普段手話を使っている聴覚障がい者はどのようにコミュニケーションを取るのでしょうか。

越川：筆談をしたり、指をさしたりして伝えます。ただ、なかなか伝わらなくて困ることがありますね。たとえば、飲食店に行った時、食事をしながら手話で話していたら時間がかかってしまって、帰るように促されたことがあります。聞こえないことに対して、もう少し理解があるとうれしいです。

手話を知らない人が聴覚障がい者と話す時、どのような工夫があるとわかりやすいですか。

越川：手話を知らなくても、表情や簡単な身ぶりがあるとわかりやすいです。手で丸を作るジェスチャーだけでも、「ボール」だと伝わります。
山田：聴覚障がい者と話す時、「この人は聞こえないから、手話を使わないといけない」と敬遠しないでほしいです。自然な身ぶりを使えば、伝えることができます。たとえば、海外で現地の言葉が話せない時、身ぶり手ぶりで通じ合えることがありますよね。同じように、手話ができなくても「できない」と構えるのではなく、身ぶりや表情で伝えてみてください。

聞こえないことが理由で諦めたこと、うまくいかなかったことはありますか。

越川：ありません。聞こえなくても、努力して壁を乗り越える気持ちが大事だと思っています。聞こえないからという理由で、いろいろなことを断られることはありますが、諦めず交渉することで、希望がかなうこともあります。聞こえない人でも、「料理人になりたい」と決意して、

努力してお店をオープンした人もいますよ。

手話は、日本語の話し言葉や書き言葉と比べて、どのような違いがあるのでしょうか。

山田：1つ目の違いは、語順です。日本語と英語で語順が違うのと同じですね。2つ目は、言葉と言葉をつなぐ助詞の「てにをは」がありません。また、多くの手話が動詞と形容動詞で表現されます。たとえば、両手の手のひらを開いて指先を下に向けて、同時に2回下ろす動作をすると、「雨が降る」という意味になりますが、「雨が降る」という手話は一つの動きで表現され、明確に名詞と動詞を区別できません。手話は、日本語とは異なる言語の一つなのです。

手話を勉強する上で、大変だったことはありますか。

山田：やはり、一つ一つの動作を覚えることが大変でした。手話の動きは立体的なので、その場でしっかりと目に焼き付けなければなりません。同じ手話をみんなで見ているとしても、人によってそれぞれ見方は違います。同じように動きをまねすることは、簡単ではないんです。一度教わっても、忘れないうちに復習しなければ、正確に身に付けることはできませんから、やはり努力が重要だと思いますね。「上手な手話通訳者は一日にして成らず」です。

手話を使える人を増やしたい

渋谷区には、どのような地域社会になってほしいと期待しますか。

越川：身ぶりでもコミュニケーションを取ることはできるので、聴覚障がい者を見ても構えないでほしいです。多くの人に手話に興味を持っていただいて、手話を使える人が自然に増えていくといいと思います。

山田：聴覚障がいがある人に対して優しい社会になってほしいです。ただ、全ての人が手話で覚えるのは大変ですから、聴覚障がい者が困っているところを見かけたら、筆談でも身ぶりでも、誰もが積極的にコミュニケーションを図れるような社会になるといいですね。それから、小学校などの教育現場で手話に触れられる機会があると、自然に手話を覚え、聴覚障がい者への理解が深まっていくのではないかと思います。

読者の皆さんにメッセージをお願いします。

越川：「ありがとう」「おはよう」「お疲れさま」などの日常で使う手話を、少しでもいいので覚えてほしいです。また、毎年開催されている渋谷区手話講習会にもぜひ、興味があれば参加してみてください。皆さんが聴覚障がい者と接する機会があったら、気軽にポンポンと肩をたたいて、簡単な手話でコミュニケーションが取れるような環境を作ることができたらうれしいです。

山田：手話の勉強は難しいですが、興味があれば気軽に、手話の会に来ていただければと思います。手話通訳者に頼まなくても、街の中に手話ができる人が増えれば、聴覚障がい者の皆さんも安心して社会生活を送ることができます。それから今、一番懸念しているのは災害時の支援です。災害が発生して避難所で過ごさなければならなくなった時、手話ができる人がたくさんいると大変助かります。少しでも学んでみたいと思ったらぜひ、勉強してみてくださいね。

「ありがとう」「あいさつ」の手話を覚えよう

「ありがとう」の手話



①左手の甲を上にして、その上に右手を垂直に立てます。



②右手を上げて、同時に頭を下げます。

「あいさつ」の手話



①両手の人差し指を向かい合わせます。



②すぐに、同時に指を同時に曲げます(人がお辞儀する様子を表しています)。

※「朝」「正午」「夜」と「あいさつ」の手話を組み合わせて、「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」を表現します

渋谷区手話言語への理解の促進及び障害の特性に応じた意思疎通手段の利用の促進に関する条例

渋谷区では、全ての区民が、障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する地域社会の実現を目指して、令和3年4月1日、この条例を施行しました。手話が言語であることへの理解を広げ、障がいの特性に応じた意思疎通手段が利用しやすい環境の整備に取り組んでいます。

障がい者福祉課福祉計画推進係 条例啓発パンフレットはこちら▶

手話講習会を開催しています

区内在住・在勤・在学中で、講習会修了後、区内で通訳活動ができる人を対象に、手話講習会を開催しています(費用無料)。来年度の受講生は、しぶや区ニュース令和5年3月1日号で募集します。

越川さん、山田さんへのインタビューは12月6・13日に「渋谷の星」で放送します。バックナンバーはこちら▶

広報コミュニケーション課広報係 (☎03-3463-1287 ☎03-5458-4920)

渋谷区の番組を放送中です
ラジオしぶや区ニュース 月〜木 11:00/16:00/21:50 (10分間) 「しぶや区ニュース」の情報を発信します。
渋谷いきいき倶楽部 月〜金 13:00/16:30 (30分間) シニアの皆さんを応援する番組です。
渋谷の星 火 11:15 (45分間) 渋谷区で活躍する人たちが登場します。
渋谷のくらし 金 16:00 (30分間) 地域の催しなどの様子を伝えます。
ラジオしぶや区ニュース(区長の部屋) 金 11:00/17:00/19:50 (10分間) 長谷部区長が出演します。(ラジオしぶや区ニュースの内容になる場合があります)

「しぶや区ニュース」では毎月、「渋谷のラジオ」と連動したページを掲載。「しぶや区ニュース」と「渋谷のラジオ」が連携して、人と人のつながりが広がる紙面を届けています。

周波数：87.6MHz FM ☆公式アプリ(iOS・Android)でも聴取可能
所在地 | 渋谷3-22-11 サンクスプライムビル1階 TEL | 03-6712-6876
FAX | 03-5778-9620 E-MAIL | info@shiburadi.com HP | shiburadi.com/